

様式1 令和7年度 清瀬市立清瀬第七小学校 学校評価計画

学校の教育目標	○健康で強い子 ○思いやりのある子 ◎よく考える子	育成を目指す資質・能力及び特色ある教育活動
目指す学校像(ビジョン)	児童の夢に向かい努力する力を育てる清瀬7小～キャリア教育の推進を通して～	【育成を目指す資質・能力】 ○健康で強い子…すすんで健康保持増進に努める意欲、基礎的な運動の技能、健康についての知識 ○思いやりのある子…他者の気持ちを理解する力、共感できる力、他者との違いを認める力 ○よく考える子…基礎的な知識・技能、情報活用能力、問題発見・解決能力、自分の思いや考えを豊かに表現する力
【目指す学校像】	児童が楽しく学ぶ学校、保護者・地域と共に児童を育てる学校、教職員が協力して主体的に働く学校	【特色ある教育活動】 ◎地域力を生かしたキャリア教育を推進による自己理解・自己管理能力、人間関係形成・社会形成能力、課題対応能力やキャリアプランニング能力の育成◎障害者理解の促進…通常学級と特別支援学級との交流学习、特別支援教室についての情報発信
【目指す児童・生徒像】	主体的に学び、互いに認め合い、支え合い、高め合う児童	
【目指す教師像】	向上心を持ち、協力しながら主体的に働ける教師	
前年度までの学校経営上の成果と課題	【成果】○キャリア教育計画に基づくキャリアプランニング能力の向上 ○学校ホームページによる情報発信と閲覧の啓発 ○コミュニティスクールへ向けた地域人材、資源の活用 【課題】○体力向上を図る環境の整備と取り組みの一層の充実 ○保護者地域への学校の取組の周知方法の改善(いじめ対策、キャリア教育等)	

柱	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	取組指標(評価基準)	成果指標(評価基準)
確かな学力の向上	基礎的な知識・技能を身に付けさせるとともに、問題解決能力や情報活用能力を育成し、学力向上を図る。	「学ぶ楽しさ」「わかった、できた喜び」を再認識させるとともに、「なりたい自分」を目指し、学びに向かう意欲が高められるような授業を実践する。	授業研究や授業改善推進プランの作成、市内外の研修への参加などの取り組みを通して授業改善を行い、児童の学習に対する満足度を高める。	4 授業研究や研修への参加、授業改善推進プランの作成などの取組を通して授業改善を行った(全教員) 3 研究授業や研修への参加、授業改善推進プランの作成などの取組を通して授業改善を行った(教員の90%以上) 2 研究授業や研修への参加、授業改善推進プランの作成などの取組を通して授業改善を行った(教員の80%以上) 1 研究授業や研修への参加、授業改善推進プランの作成などの取組を通して授業改善を行った(教員の80%未満)	4 「学ぶ楽しさ」「わかった、できた喜び」を実感できた児童(90%以上) 3 「学ぶ楽しさ」「わかった、できた喜び」を実感できた児童(80%以上) 2 「学ぶ楽しさ」「わかった、できた喜び」を実感できた児童(70%以上) 1 「学ぶ楽しさ」「わかった、できた喜び」を実感できた児童(70%未満)
		児童の自己理解・自己管理能力、人間関係形成・社会形成能力、課題対応能力やキャリアプランニング能力を育成する。	児童の実態調査を実施し、実態に合わせてキャリア教育の視点となる4つの能力を伸ばす指導を行う。	4 教職員の自己評価で、肯定的回答(100%) 3 教職員の自己評価で、肯定的回答(90%以上100%未満) 2 教職員の自己評価で、肯定的回答(80%以上90%未満) 1 教職員の自己評価で、肯定的回答(80%未満)	4 実態調査の結果でキャリア教育の4つの力の向上が認められた児童(90%以上) 3 実態調査の結果でキャリア教育の4つの力の向上が認められた児童(80%以上) 2 実態調査の結果でキャリア教育の4つの力の向上が認められた児童(70%以上) 1 実態調査の結果でキャリア教育の4つの力の向上が認められた児童(70%未満)
豊かな心の育成	思いやりのある児童の育成	異年齢集団で活動する機会を通して、人間関係形成・社会形成能力を育成し、互いを認め合い、高めあう力を育成する。	縦割り班活動や学級活動で班や集団で活動する機会を計画的に実施する。 児童会活動やクラブ活動で主体的に考え活動する機会を設ける。	4 教職員の自己評価で、肯定的回答(90%以上100%未満) 3 教職員の自己評価で、肯定的回答(80%以上90%未満) 2 教職員の自己評価で、肯定的回答(80%未満) 1 教職員の自己評価で、肯定的回答(70%未満)	4 異年齢活動で互いを認め合うことができた実感した児童(90%以上) 3 異年齢活動で互いを認め合うことができた実感した児童(80%以上) 2 異年齢活動で互いを認め合うことができた実感した児童(70%以上) 1 異年齢活動で互いを認め合うことができた実感した児童(70%未満)
		児童が自他の良さを理解し、いじめをゆるさないという意識をもって生活できる学校にする。	いじめ調査を年に3回以上行い、実態を把握し早期発見・早期対応に務める。 いじめや人権について児童自身が考える授業や活動を繰り返し行うことで、「いじめない」「見て見ぬふりをしない」意識を育む	4 いじめ調査を年3回以上＋研修3回以上の実施 3 いじめ調査を年2回以上＋研修2回以上の実施 2 いじめ調査を年2回以上＋研修1回以上の実施 1 いじめ調査を年2回以上実施 4 いじめや人権について考える授業や活動 5回以上の実施 3 いじめや人権について考える授業や活動 4回以上の実施 2 いじめや人権について考える授業や活動 3回以上の実施 1 いじめや人権について考える授業や活動 2回以上の実施	4 保護者の学校によるいじめ・人権に関する取り組みへの満足度(90%以上) 3 保護者の学校によるいじめ・人権に関する取り組みへの満足度(80%以上) 2 保護者の学校によるいじめ・人権に関する取り組みへの満足度(70%以上) 1 保護者の学校によるいじめ・人権に関する取り組みへの満足度(70%未満) 4 児童対象学校評価アンケートでの児童の肯定回答割合(90%以上) 3 児童対象学校評価アンケートでの児童の肯定回答割合(80%以上) 2 児童対象学校評価アンケートでの児童の肯定回答割合(70%以上) 1 児童対象学校評価アンケートでの児童の肯定回答割合(70%未満)
健やかな体の育成	体力向上や健康維持・増進に取り組む習慣を身に付けさせる。	運動する楽しさを伝える教育活動を通して児童の体力向上を図る。	体育の授業だけでなく、朝や休み時間、体を動かす楽しさを伝える児童の運動への意識を高める。	4 教職員の自己評価で、肯定的回答(100%) 3 教職員の自己評価で、肯定的回答(90%以上100%未満) 2 教職員の自己評価で、肯定的回答(80%以上90%未満) 1 教職員の自己評価で、肯定的回答(80%未満)	4 体力が向上していると実感できた児童(90%以上) 3 体力が向上していると実感できた児童(80%以上) 2 体力が向上していると実感できた児童(70%以上) 1 体力が向上していると実感できた児童(70%未満)
		健康的な生活を送るための習慣づくりを図ることで主体的に健康を向上させようとする児童の育成を図る。	食事、睡眠、運動や清潔について学級指導を学期に3回以上指導を行う。	4 教職員の自己評価で、肯定的回答(100%) 3 教職員の自己評価で、肯定的回答(90%以上100%未満) 2 教職員の自己評価で、肯定的回答(80%以上90%未満) 1 教職員の自己評価で、肯定的回答(80%未満)	4 食事や健康について意識的に気をつけている児童(90%以上) 3 食事や健康について意識的に気をつけている児童(80%以上) 2 食事や健康について意識的に気をつけている児童(70%以上) 1 食事や健康について意識的に気をつけている児童(70%未満)
特別支援教育の充実	支援が必要な児童を早期に発見し、適切に支援する。	交流教育を通して、児童の豊かな人間性を育む。	年間計画に基づき、共同学習や交流を学期に1回以上(年3回以上)実践する。	4 3回以上実施した学年の割合(90%以上) 3 3回以上実施した学年の割合(80%以上) 2 3回以上実施した学年の割合(70%以上) 1 3回以上実施した学年の割合(70%未満)	4 交流及び共同学習に対する児童の満足度A(90%以上) 3 交流及び共同学習に対する児童の満足度A(80%以上) 2 交流及び共同学習に対する児童の満足度A(70%以上) 1 交流及び共同学習に対する児童の満足度A(70%未満)
		特別な支援を要する児童に対する支援を実現する。	特別支援研修会で学んだことを生かし、これまでの指導支援について検証し、それぞれのケースにあった支援を行う。	4 教職員の自己評価で、肯定的回答(100%) 3 教職員の自己評価で、肯定的回答(90%以上100%未満) 2 教職員の自己評価で、肯定的回答(80%以上90%未満) 1 教職員の自己評価で、肯定的回答(80%未満)	4 保護者の特別支援に対する肯定的評価(90%以上) 3 保護者の特別支援に対する肯定的評価(80%以上) 2 保護者の特別支援に対する肯定的評価(70%以上) 1 保護者の特別支援に対する肯定的評価(70%未満)
本校の特色	地域との連携を深め、地域に開かれた学校を実現する。	地域・保護者の教育的資源を積極的に活用し地域の中の学校づくりを目指す。	学校支援本部との連携を図り、地域や保護者の人材活用を積極的に行う。	4 全学年で、地域の人材を活用 3 3分の2以上の学年で、地域の人材を活用 2 3分の1以上の学年で、地域の人材を活用 1 地域の人材の活用が未実施	4 児童の満足度の評価A(児童の90%以上) 3 児童の満足度の評価A(児童の80%以上90%未満) 2 児童の満足度の評価A(児童の70%以上80%未満) 1 児童の満足度の評価A(児童の70%未満)
		学校情報を地域・保護者に積極的に発信する。	HPやH&Sで保護者に必要な情報や学校での学習や活動の様子を掲載し、休業日以外にできるだけ毎日情報発信を行う。	4 HPやH&Sでの情報発信が年間200回以上 3 HPやH&Sでの情報発信が年間190回以上 2 HPやH&Sでの情報発信が年間180回以上 1 HPやH&Sでの情報発信が年間180回未満	4 保護者の情報発信に対しての肯定的評価(90%以上) 3 保護者の情報発信に対しての肯定的評価(80%以上) 2 保護者の情報発信に対しての肯定的評価(70%以上) 1 保護者の情報発信に対しての肯定的評価(70%未満)